

## U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

## 米国 天候要因と自動車での生産調整で鉱工業生産は減少(05年4月鉱工業生産)

発表日: 05年5月17日(火)

~ 製造業は自動車の減少が続くもハイテクの拡大により増加に転じた ~

(No. UI - 033)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

## 鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)							設備稼働率	生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	稼働率	製造業 (NAICS)	
04/04	+0.5	(+4.7)	+0.6	+0.0	+0.2	+1.7	+0.6	0.3	+77.7	+75.8	+0.1
04/05	+0.7	(+5.4)	+0.6	0.6	+2.6	+2.4	+0.5	1.5	+78.2	+76.1	+0.1
04/06	0.4	(+4.7)	0.1	0.5	2.0	+1.2	0.3	1.8	+77.8	+76.0	+0.1
04/07	+0.7	(+4.8)	+0.8	+1.2	0.4	+1.2	+0.8	0.4	+78.3	+76.5	+0.1
04/08	+0.1	(+5.0)	+0.3	0.4	1.9	+1.0	+0.3	+3.4	+78.3	+76.6	+0.1
04/09	0.3	(+3.9)	0.4	2.7	+3.3	+0.6	0.4	1.2	+78.0	+76.3	+0.1
04/10	+0.8	(+4.6)	+1.1	0.4	0.4	+0.9	+1.0	+3.5	+78.5	+77.0	+0.1
04/11	+0.3	(+3.8)	+0.1	+1.8	+0.5	+1.8	0.0	0.6	+78.7	+77.0	+0.1
04/12	+0.8	(+4.4)	+0.5	+0.9	+3.1	+1.6	+0.4	+1.2	+79.2	+77.3	+0.1
05/01	0.1	(+4.0)	+0.3	0.7	3.8	+3.8	+0.2	1.7	+79.1	+77.4	+0.1
05/02	+0.5	(+3.4)	+0.6	+2.4	1.2	+1.5	+0.4	+5.2	+79.4	+77.7	+0.1
05/03	+0.1	(+3.9)	0.3	+0.5	+3.6	+0.8	0.4	4.0	+79.4	+77.4	+0.1
05/04	0.2	(+3.1)	+0.1	+0.0	2.3	+1.8	0.1	3.5	+79.2	+77.3	+0.1

出所)FRB

(注)数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

### 製造業生産が前月比+0.1%と増加に転じたものの鉱工業生産は同0.2%

05年4月の鉱工業生産は、前月比0.2%と市場予想の同+0.2%に反し低下した(1、2、3月はそれぞれ改定されたが、合計でプラスマイナスゼロ)。製造業がプラスに転じたものの、鉱業が減速、電力等公益が減少に転じた。生産の90%を占める製造業(NAICS)は、自動車部門の生産減少が続いたもののハイテク関連、設備投資関連、建設関連等の生産が加速したことによって同+0.1%とプラスとなった(2、3月合計で0.1%ポイント上方改定)。拡大した業種数も製造業19業種中13業種と3月の9業種から増加しており、間もなく減速に歯止めがかかる可能性がある。公益は気温が高くなったことに伴い同2.3%と低下した。鉱業は同+0.0%と横這いとどまった。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、鉱工業生産が+2.9%(3月+3.6%)、製造業生産が+2.9%と3月の+3.6%からそれぞれ低下しており、共にモメンタムは鈍化している。

### 稼働率は79.2%と前月の79.4%から低下

4月の稼働率は生産能力が前月比+0.1%と増加した一方、生産が同0.2%減少したため79.2%と市場予想の79.5%への上昇に反し、3月の79.4%から低下した。製造業は77.3%と3月の77.4%から低下した。今後、緩やかながらも生産の拡大が続くとみられることから、余剰生産能力の減少が着実に続くと見込まれ、増産投資は底堅く推移すると予想される。

増産投資は既に拡大に転じていることから、今後生産能力の拡大ペースが加速し稼働率の上昇ペースが抑制されるとみられ、利上げペースの加速要因にはなり難いと考えられる。

**製造業生産では  
19業種中13業種  
の拡大**

業種別では、鋳業は3月の前月比+0.5%から同+0.0%に鈍化した。公益は昨年よりも休日が少ないため季節係数が小さかったなかで、4月の気温が例年並みに回復したことから季節調整後の電力・天然ガス使用量が減少し同2.3%となった。製造業では自動車の大幅減少が持続、繊維の減少ペースが加速した。さらに、木材、一次金属、家具、プラスチック・ゴムが減少に転じた。一方、非鉄、加工金属、一般機械、コンピューター・電子機器、航空宇宙・その他輸送機器、食品・飲料・タバコ、アパレル、紙、印刷、石油・石炭製品、化学など製造業19業種中13業種が上昇した。

米自動車メーカーの生産調整によって大幅な減少が続いた自動車関連は、完成車が同4.9%、自動車部品が同2.4%とともに低下し、同3.5%となった。他方、好調が持続しているハイテク関連は、コンピューター生産の堅調が続くもと、半導体の拡大ペースが加速、通信機器が増加に転じたことにより同+1.8%（3月同+0.8%）と加速した。

**最終財、原材料と  
もに減少**

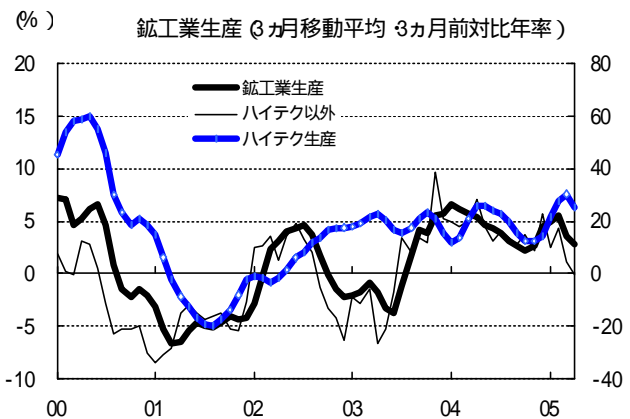
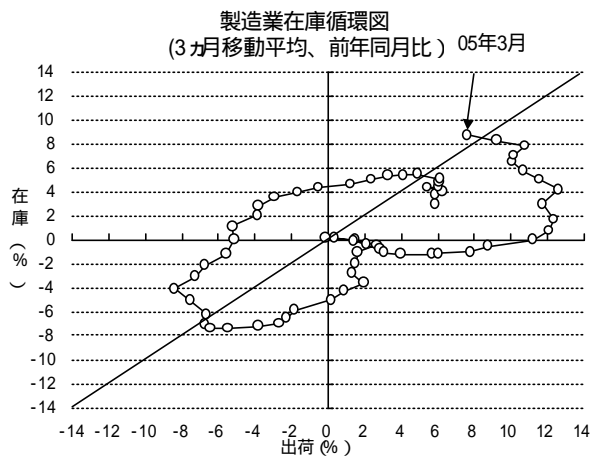
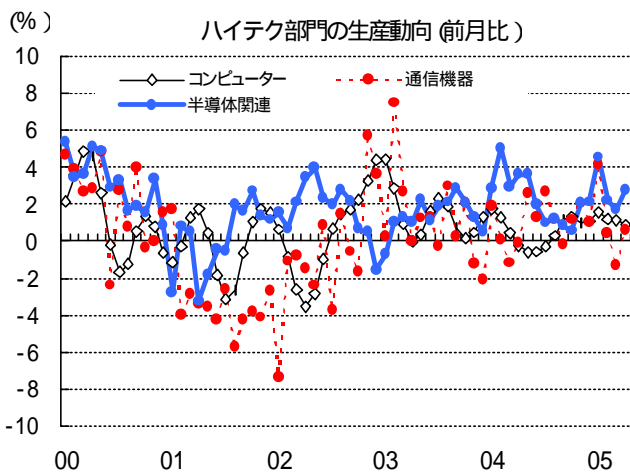
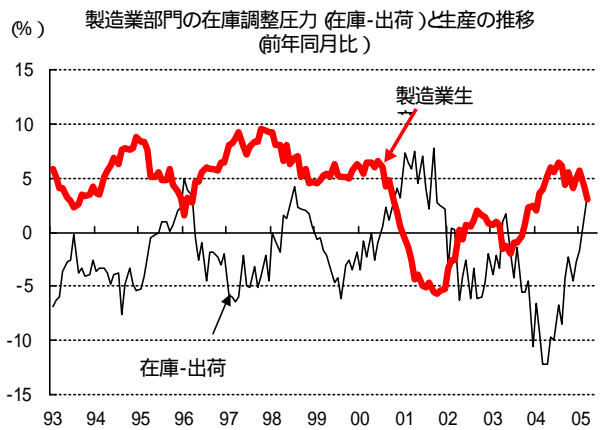
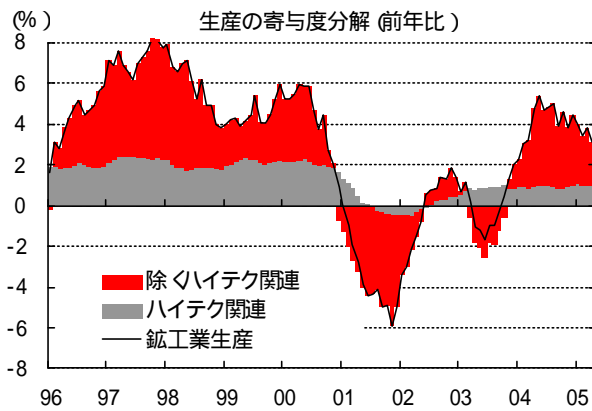
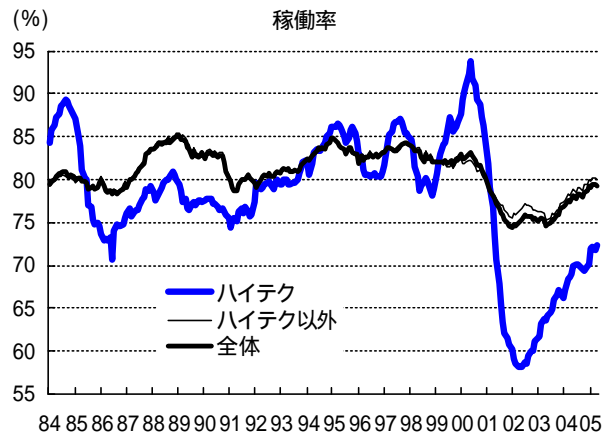
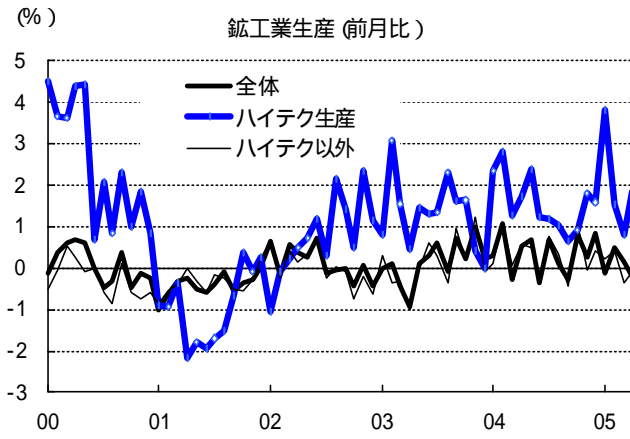
需要段階・財別の動向をみると、最終財・非産業財（全体の57.99%）では、情報機器や産業機器といった企業設備、建設財が増速したもの、消費財が減少幅を拡大し、さらに、部品財が減少に転じたため、全体は前月比0.3%と減少に転じた。一方、原材料財（全体の42.01%）では、非耐久財向けが増加に転じ、耐久財向けの減少幅が縮小したため、非エネルギー向けは同+0.1%と増加に転じた。しかし、エネルギー向けが減少に転じたため、原材料財は同0.1%とマイナスに転じた。

**4～6月期も自動車  
の生産調整によ  
って前期比で拡大  
ペース鈍化が見込  
まれる**

最終需要の動向では、個人消費は雇用・所得の拡大を背景に2004年4～6月期以降も同+3%台の伸びが予想される。加えて、設備投資は減価償却率の30%から50%への引き上げ措置が2004年末で終了したものの、これまでの堅調な成長による期待成長率の高まり、キャッシュフローの拡大、2万5千ドルから10万ドルに拡大された中小企業の設備投資償却枠が2005年末で終了することに伴う需要増を背景に、好調を維持すると見込まれる。このような最終需要のもと、製造業、卸売業で若干在庫が増加したことから、4～6月期、7～9月期に在庫の拡大ペース鈍化が予想される。

外需に関して、輸出はドル安の押し上げ効果が期待できるものの4～6月期以降貿易相手国の成長鈍化が見込まれることから、拡大ペースが一旦鈍化しよう。一方、輸入は国内需要の堅調を背景に高い伸びが持続するとみられる。

以上のことから、年末にかけて緩やかに成長ペースが加速すると予想される。このような中、鋳工業生産は4～6月期も自動車での生産調整によって前期比で拡大ペースが鈍化しよう。7～9月期には、世界的なハイテク部門の在庫調整が終了するため生産の拡大ペース加速が予想される。ただし、日欧の景気拡大ペース加速時期が10～12月期に後ずれするとみられることから、生産は緩やかな拡大ペースが予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。